

琵琶湖・瀬田川の水質概況速報(平成 21 年度第 3 四半期)

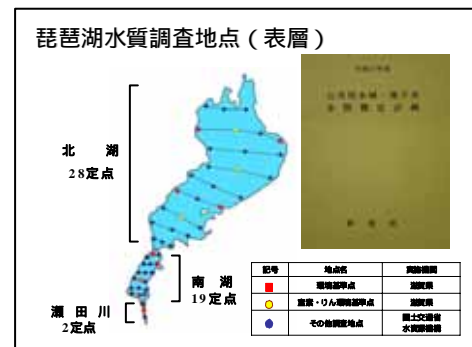
琵琶湖環境科学研究センターでは、水質汚濁防止法第 16 条の規定に基づき作成した公共用水域水質測定計画等に基づき琵琶湖および瀬田川で、採水、水質分析を実施しています。このたび、平成 21 年度第 3 四半期分について水質概況速報がまとまりましたので、報告します。

なお、琵琶湖・瀬田川水質は、年間を通した解析により正式な評価を行うため、ここで公開する速報値が、後日、修正を加えられる可能性があることをご了承ください。

調査方法について

北湖 28 地点、南湖 19 地点、瀬田川 2 地点の計 49 地点において、国土交通省近畿地方整備局琵琶湖河川事務所、水資源機構および当センターで協力、分担し表層 0.5mでの毎月の水質変動を調査しています。

また、琵琶湖の北湖深層部における水深別調査は、当センターでは今津港と長浜港を結ぶ線上のほぼ中央の水深約 90m地点今津沖中央(通称「17B」)において、月 2 回実施しています。



調査結果について

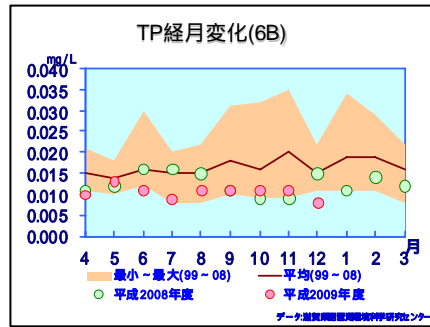
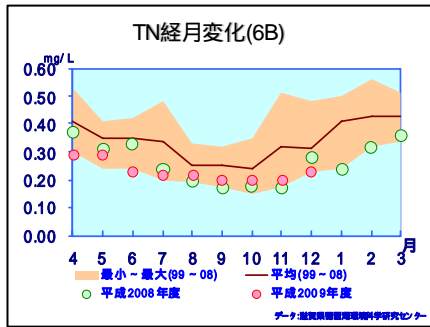
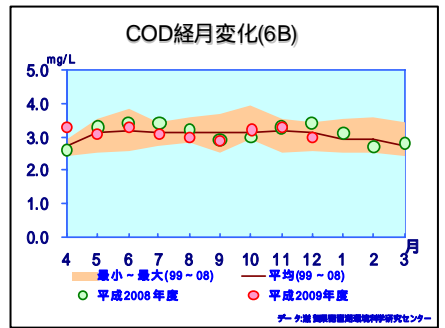
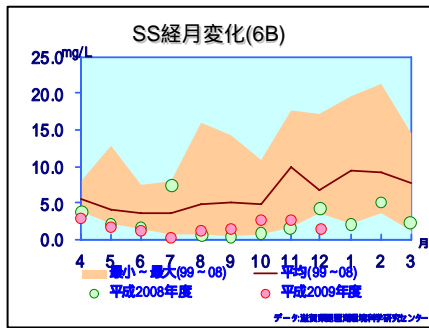
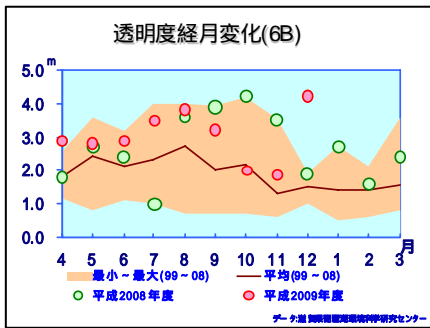
琵琶湖北湖の代表点として 17B、南湖の代表点として唐崎沖中央(6B)のそれぞれの経月変化からみる平成 21 年度第 3 四半期までの水質概況はつぎのとおりです。

唐崎沖中央調査結果

透明度については、10月・11月は過年度(過去 10 年間)平均並の値でしたが、12月は高い値となりました。透明度に影響を与える浮遊物質量(SS)の推移を見ると、12月には SS が過年度の最小値より低い値でした。なお、透明度は、気象条件、水草の繁茂状況等の影響を受けやすいため大きく変動する月があります。

有機物指標である化学的酸素要求量(COD)については、10月から12月は過年度平均並の値で推移しています。

富栄養化項目である全窒素(TN)、全りん(TP)は、過年度平均値より低めに推移しています。



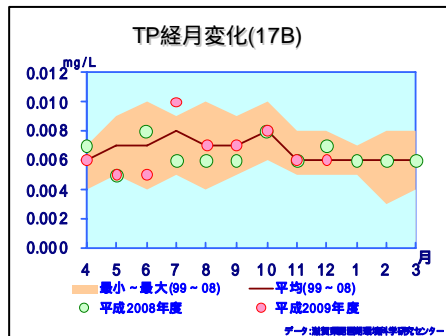
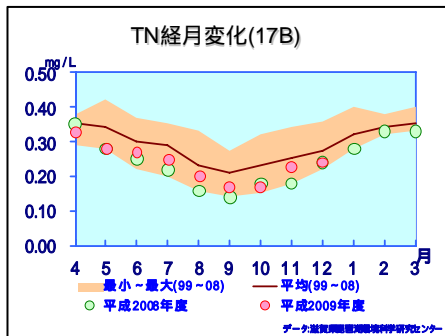
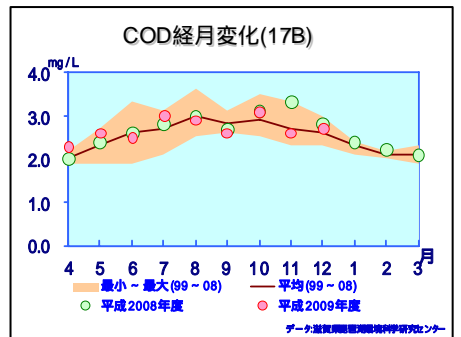
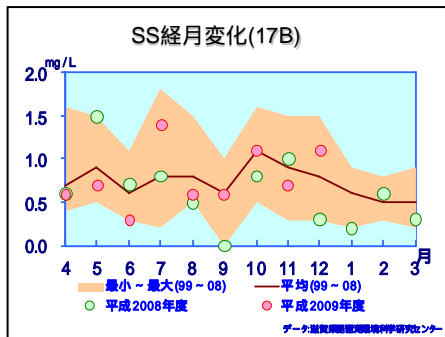
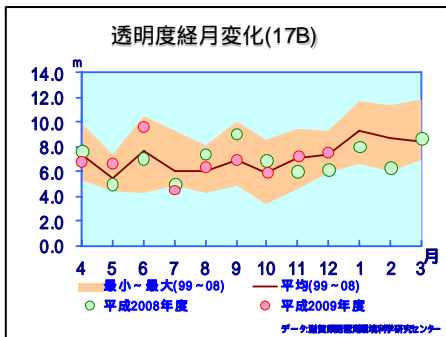
今津沖中央調査結果

透明度については、気象条件等の影響を受けやすいため昨年度の経月変動と異なった動きを示していますが、10月から12月は過年度平均値並でした。SSの推移と比較すると、南湖と同様に透明度とSSは連動した推移が見られましたが、SSは12月に過年度平均値に比べ少し高い値となりました。

CODについては、10月から12月は過年度平均値並でした。

全窒素は過年度平均値より低めに推移しています。

また、全りんは、10月から12月は過年度平均値並で推移しています。



(問い合わせ先)

〒520-0022 大津市柳が崎 5-34

滋賀県琵琶湖環境科学研究センター

環境監視部門 水圏担当

TEL:077-526-4255 FAX:077-526-4803

E-mail: dc31400@pref.shiga.lg.jp